

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	対象地域において思春期の妊娠数減少に貢献する。
(2) 事業内容	2015 年 7 月 31 日までに以下の活動を実施した。 <u>活動 1：保健所の思春期層に対するリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境の向上</u> 地域の思春期層、親、教師に対して思春期リプロダクティブヘルスに関するベースライン調査を実施した。2015 年 5 月～6 月にかけては、対象 4 保健所（サン・ディエゴ、フティアパ、チチカステ、ヴィジャ・サンタ）のスタッフ計 12 名に対して、価値観、思春期層と大人のコミュニケーション、性とジェンダー、保健サービスの向上のための活動計画（アクションプラン）等のテーマについて、合計 6 日間の研修を実施した（サン・ディエゴは 4 日間を実施済。残り 2 日間を 8 月中に実施予定）。その後、保健所と学校が協力して定期的に学校でワークショップを行う、ピアルームに質問箱を設置するなど、思春期リプロダクティブヘルスを向上させるためのアクションプランが策定された。また、思春期層の妊娠・出産数、産前産後健診数、カウンセリング数のデータを収集、整備することの重要性についての理解が促進されたことにより、4 保健所でデータの整備が開始された。更に、保健所や学校と協議を重ね、思春期層がリプロダクティブヘルスに関する相談や啓蒙活動ができる場所として、ピアルームが各対象地で設置され、7 月より利用が開始された。（設置場所は、サン・ディエゴ、チチカステ、ヴィジャ・サンタは学校内、フティアパは保健所内。） <u>活動 2：学校教師、父母（PTA）、保健所間の協力体制の構築</u> 活動 1 で実施した保健所スタッフに対する研修と合同で研修を実施し、学校教師 48 人が参加した。学校教師に対する研修は保健所スタッフのものとは別に実施する予定にしていたが、保健所との連携をより強固なものとするために、合同で実施することとした。現在、活動 1 で設置した各ピアルームで週 1 回の相談日を設け、教師からリファール（紹介）された思春期層が、保健所スタッフのカウンセリングを受ける等の相談体制が構築されつつある。また、4 月に保護者に対する事業説明会を実施し、6 月には思春期層の父母 86 人が参加して、思春期の身体、性教育の重要性等に関する第 1 回目の研修（1 日間）を行った。 <u>活動 3：ピアリーダーの育成</u> 学校教員の協力により、成績やリーダーシップなどを考慮して、ピアリーダー 102 名を選出した。7 月中に 4 地区全てで 2 日間の研修を実施し、ピアリーダーたちは価値観、思春期に加え、思春期層がリプロダクティブヘルスに関する理解を深めるための活動計画（アクションプラン）の作成の仕方について学んだ。 <u>活動 4：思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識の向上</u> 活動 3 で選出され、研修を受講したピアリーダーによって、4 地区全てで活動計画（アクションプラン）が策定された。アクションプランでは、価値観や思春期の変化についてポスターを作成する、同テーマについて同級生に研修活動を行うことなどが計画され、ヴィジャ・サンタでは第 1 回目の活動として価値観に関する研修を、ピアリーダーが小学校 5 年生に対して実施した。

(3) 達成された効果	事業目標：「対象地域において、思春期層が適切なリプロダクティブヘルスケアを受けられるようになる」 【指標 1】 思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリングが保健所で開始され、思春期層（10 歳～19 歳）200 名がカウンセリングを受ける。 サン・ディエゴ保健所では、担当医師がピアルームを週 1 回訪問し、思春期層のカウンセリングを開始した。また、他の 3 地区では学校訪問はまだしていないものの、各保健所で思春期層に対するカウンセリングを開始し、データの集計も開始された。 【指標 2】 思春期層の妊婦の産前健診の受診件数が 20%増加する。 ベースライン調査を実施したところ、2014 年の 4 保健所合計の思春期層に対する産前健診数は 612 件であった。 成果の指標達成状況は、以下の通り。 成果 1：保健所での思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境が向上する。 【指標 1-1】 保健所スタッフ 14 人のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。 ⇒4 日間の研修の前後のテストの結果、12 名のうち 11 名の知識の向上が確認された（平均正答率 53%→75%）。 【指標 1-2】 保健所において思春期層の妊娠・出産数、産前産後健診数、カウンセリング数のデータが整備される。 ⇒各保健所でデータの整備が開始された。 【指標 1-3】 保健所において思春期リプロダクティブヘルスに関するアクションプランが策定され、実施される。 ⇒各保健所で、定期的に学校でワークショップを行う、ピアルームに質問箱を設置するなどのアクションプランが策定された。 【指標 1-4】 リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層の 80%がサービスに満足する。 ⇒8 月からアンケートを実施して確認する。 【指標 1-5】 保健所スタッフ 14 人がピアサポーターとして養成される。 ⇒事業後半に確認する。 【指標 1-6】 ピアルームが約 200 名の思春期層に利用される。 ⇒7 月にピアルームの利用が開始された。 成果 2：学校教師、父母（PTA）、保健所間の協力体制が構築される。 【指標 2-1】 研修を受ける学校教師 50 人が思春期リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を身につける。 ⇒45 名に事前テストを実施したところ、平均正答率は 38%であった。事業の後半に研修が終了した時点で、事後テストを行い、正答率を比較する。 【指標 2-2】 教師から保健所への相談体制が構築される。 ⇒思春期のリプロダクティブヘルスに関する研修を、保健所スタッフと教師と一緒に受講してアクションプランを作成したことで、早い段階で、教師から紹介された思春期層が保健所スタッフのカウンセリングを受けられる体制が構築されつつある。
--------------------	--

	【指標 2-3】研修を受ける思春期層の父母 100 名が思春期リプロダクティブヘルス教育に対する理解を深める。(試験の平均正答率が 60%以上) ⇒第 1 回父母研修前に 86 名にテストを実施したところ、平均正答率は 55%であった。 成果 3：ピアリーダーが育成される。 【指標 3-1】ピアリーダー100 名の 80%が思春期リプロダクティブヘルスに関する啓蒙活動を継続している。 ⇒ピアリーダー102 名を選出し、研修を受講するなど、啓蒙活動を実施するための準備を行った。 【指標 3-2】活動を継続しているピアリーダーの思春期リプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。(試験の平均正答率が 70%以上) ⇒102 名に事前テストを実施したところ、平均正答率は 61%であった。事業の後半に研修が終了した時点で、事後テストを行い、正答率を比較する。 【指標 3-3】ピアリーダーから各保健所への相談体制が構築される。 ⇒事業後半に確認する。 成果 4：思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する 【指標 4-1】ピアリーダーによる活動計画（アクションプラン）が策定されその 80%以上が実施されている。 ⇒全 4 地区でアクションプランが策定された。実施状況は事業後半に確認する。 【指標 4-2】思春期の青少年約 2,000 人が、学校内外でのピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等によりリプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発される。 ⇒事業後半に確認する。 【指標 4-3】思春期層の 80%が知識を向上させる。 ⇒思春期層 213 名に対し事前テストを実施したところ、平均正答率は 50%であった。事業の後半に研修が終了した時点で、事後テストを行い、正答率を比較する。
(4) 今後の見通し	事業は計画通り進捗しており、今後も以下の活動をタイムテーブルに沿って実施していく。 <u>活動 1. 保健所での思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境の向上</u> 9 月、11 月、2016 年 1 月に保健所スタッフに対する研修の実施を計画しているとともに、ピアルームの利用状況およびアクションプランの実施状況のモニタリングを行う。 <u>活動 2. 学校教師、父母 (PTA)、保健所間の協力体制の構築</u> 9 月、11 月、2016 年 1 月に教師、8 月、11 月に父母に対する研修を実施する予定である。また、教師から保健所へのリファースシステムが定着していくように、モニタリングと必要な助言を行う。 <u>活動 3. ピアリーダー育成</u> 8 月、9 月、10 月、11 月にリーダー育成研修を行う。 <u>活動 4. 思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識の向上</u> 今後、事業の終了までに、4 地区合計で 30 回のピア教育活動を実施する計画である。